

昨今のITの話題



茨城大学工学部
石黒 美佐子

40年前、原研の計算センター発足に向けて採用され、その後大学に移って、計算科学推進センタやRISTを見守ってきたOBの一人として、最近の情報処理の主要な研究・開発テーマには隔世の感があり、自分はもう過去の人だと思ってしまう今日この頃です。

「情報処理 = 数値計算」の時代は去り、最近の情報処理学会誌で取り上げられたテーマは「人間支援のための分散リアルタイムネットワーク」、「ユーザビリティエンジニアリング」、「テキスト自動要約」に見られるように、「インターネット&ネットワーク&人間にやさしい」がキーワードとなっている。

私は並列数値計算を専門にしてきたが、学生の卒業研究や修士の研究では、小難しいことよりは学生の感性に基づく、ネットワークゲームプログラミングや、携帯電話を利用したシステムの開発など当世のIT技術を利用したソフト開発に大きな力を発揮している。この種の実用重視のソフト開発は、論文にはなり難いが、高度産業人を育成するという茨城大学のアドミッションポリシーにかなったものである。このように大学も変わって行かなければならない。

RISTにおいても、原子力というキーワードに加えて、このような情報処理の主要なテーマの変遷を踏まえ、「インターネット&ネットワーク&人間にやさしい」を重視した専門家集団に脱皮して欲しいと思う。このためには若い人の力が結集できる運営が望まれる。